別添

# 首都圏中央連絡自動車道（大栄ＪＣＴ～松尾横芝ＩＣ）連絡調整会議（第２回）<br>議事概要

１．日時

令和５年１０月１３日（金）１０時から１１時

２．出席者

国土交通省　関東地方整備局　千葉国道事務所長　藤井　和久

千葉県　県土整備部　道路計画課長　横田　彰洋

東日本高速道路株式会社　関東支社　千葉工事事務所長　笹原　壮雄

３．議事

（１）現在の進捗状況について

（２）課題の状況について

（３）今後の開通見込みについて

（４）事業費について

４．議事概要

〇現在の進捗状況、課題の進捗状況

・用地取得率は現在１００％。

・裁決申請対象地については、引き渡し完了に伴い用地取得が完了し、現在、埋蔵文化財発掘調査を実施中。

・全線において、用地取得が完了し、各自治体の協力のもと、埋蔵文化財発掘調査、支障物移設、未発注工事の契約手続きを進めつつ、工事を実施中。

・芝山トンネルは、芝山トンネル技術検討会で確認した補助工法の見直しにより、より強度が低くなる区間において安全かつ安定して掘削を進めている。

・環境基準を超える重金属が検出されたため工事を一部中止していたが、土壌汚染対策法に基づく千葉県による区域指定が令和５年８月に完了したことから、東日本高速道路株式会社が土地の形質の変更届出書を提出し、令和５年８月２１日から工事を再開している。

・入札不調が発生していた機能補償道路工事（跨道橋）においては、令和５年１０月１１日に契約手続きが完了し、順次工事着手予定。

〇今後の開通見込み

・用地未取得箇所、芝山トンネルの掘削、重金属の対応及び機能補償道路工事（跨道橋）の入札不調などの課題の解決が図られてきており、全体事業工程の目途がたったところ。

・そのため、大栄ＪＣＴ～松尾横芝ＩＣ間の開通見込みは令和８年度とする。なお、大栄 JCT～国道２９６号ＩＣ（仮称）間は、１年程度前倒しでの開通を目指す。

〇事業費について

・現地条件の変更に伴う、土質改良等の追加、重金属含有土運搬・処分の追加、トンネル補助工法の見直し、埋蔵文化財発掘調査範囲等の増加、労務費・材料単価の上昇等による事業費の増加が必要となった。

・これらの計画変更に伴い、事業費は 1,490 億円から 1,940 億円に増える見込み。

・事業進捗や事業費の増加も含めた事業の必要性については、事業評価監視委員会で審議する予定。

〇その他

・沿線地域では、開通を見越し、新たな開発が計画されるなど、県民や県内の経済団体から開通に対する期待が大きい。

ついては、開通見込みの確実な達成に向け、引き続き、関係者間で協力するとともに、開通見込みに関わる新たな課題等が発生した場合、速やかに情報共有を図る。